

日本財団補助金による

1999 年度日中医学協力事業報告書

—日本人研究者派遣—

2000 年 3 月 24 日

財団法人 日中医学協会

理事長 中島章 殿

講演・手術指導等の写真を添付して下さい。

1. 訪中者氏名 道 健一   
所属機関名 昭和大学 職名 教授  
所在地 〒145-8515 大田区北千束2-1-1 電話 03-3787-1151  
受入機関名 中国医科大学第二臨床学院 2X.22J  
所在地 中国遼寧省沈陽市和平区三好街26号  
受入責任者名・役職 孫 建 社 病院長

2. 中国滞在日程 (訪問都市・機関名等主な日程を記入して下さい)

1999年8月5日(木) (南雲、川和、長谷川、道) 東京発、大連乗り継ぎ瀋陽へ、瀋陽泊  
8月6日(金) (南雲、川和、長谷川、道) 中国医科大学第2病院で打ち合わせおよび講演会  
8月7日(土) (南雲、川和、長谷川、道) 中国医科大学第2病院で打ち合わせ、瀋陽観光、  
8月8日(日) (南雲、川和、長谷川、道) 鞍山発、大連へ  
(南雲、川和、道) 午後：大連着、  
(長谷川) 大連発、関西空港着、  
(大塚) 羽田発、関西空港着、大連着  
8月9日(月)：(南雲、川和、道、大塚) 大連医科大学で講演会  
8月10日(火) (南雲、川和、道、大塚) 大連、旅順観光  
8月11日(水) (南雲、川和、道、大塚) 大連発、成田へ

3. 交流報告

(別添書式を参考に、講演・指導内容、訪問地の状況・課題、今後の交流計画等を4000字以上で報告して下さい。

ワープロ使用)

交流テーマ:日中協力歯科診療センター設立と歯科医療技術の指導

訪中研究者氏名:道 健一、南雲 正男、川和 忠治、長谷川 紘司、大塚 純正

所属:昭和大学歯学部

役職:教授(大塚のみ助教授)

## 報告

### 1、概要

今回の訪中においては日本の優れた歯科治療技術を提供することによって、中国の歯科医師を教育し、中国における歯科医療技術の向上を図ることを主な目的とし、同時にこの計画を通じて日中両国の学術交流を一層深め、促進することを目的としていた。目的地は沈陽の中国医科大学第二臨床医学院であるが、経由地の大連の大連医科大学においても交流を図ることとした。

事前に中国医科大学第二臨床医学院口腔外科主任劉維賢氏および大連医科大学口腔外科主任潘巨利氏と緊密に連絡を取り合い、日程、訪問先、学術交流の内容などを決定した。

主な内容は以下の通りである。

- ①中国医科大学第二臨床医学院と昭和大学との間での「日中技術協力歯科治療センター成立協議書」の調印
- ②中国医科大学第二医学院からの客座教授の証の授与
- ③中国医科大学第二医学院における学術講演会
- ④大連医科大学における学術講演会
- ⑤中国医科大学臨床第二医学院、同口腔外科、大連医科大学、同歯学部、同口腔外科、大連医科大学付属第一医院との交流会

訪中団は昭和大学歯科病院院長：南雲正男（口腔外科学）、副院長：川和忠治（歯科補綴学）、歯科保存学教授：長谷川紘司、歯科矯正学助教授：大塚純正、口腔外科教授：道健一で構成した。日程表にも示したように、これらのうち南雲正男、川和忠治、道健一の3名は全日程に、長谷川紘司は前半、大塚純正は後半の日程に参加した。

### 2、計画の実施状況

- 1)中国医科大学第二臨床医学院と昭和大学との間での「日中技術協力歯科治療センター成立協議書」の調印

8月6日午後4時30分から中国医科大学第二臨床医学院会議室において中国医科大学第二臨床医学院孫建純病院長代理の李副病院長と昭和大学歯科病院南雲正男病院長の間で「日中技術協力歯科治療センター成立協議書」の調印を行なった。協議書の内容は別紙の通りである。

- 2)中国医科大学第二臨床医学院からの客座教授の証授与式

8月6日午後5時から中国医科大学第二臨床医学院孫建純病院長代理の李副病院長から昭

和大学の南雲正男病院長、川和忠治副院長、長谷川紘司教授、道健一教授にそれぞれ客員教授の証が授与された。一部のコピーを別に示す。

### 3) 中国医科大学第二臨床医学院における講演会

8月6日午前8時~12時に中国医科大学第二臨床医学院講堂において昭和大学の南雲正男病院長、川和忠治副院長、長谷川紘司教授、道健一教授による講演会が行なわれた。東北地方各地の病院から約100名の参加者があり、講演の後、熱心な質疑応答が行なわれた。

講演の内容は以下の通りである。

- ①南雲正男病院長（口腔外科）：高齢者口腔癌の臨床病理学的特徴
- ②川和忠治副院長（補綴科）：歯のQOLを考えた修復
- ③長谷川紘司教授（歯周病科）：歯周治療に必要な新しい知識
- ④道 健一教授（口腔外科）：インプラント成功のための要件（難症例への対応）

### 4) 大連医科大学における講演会

8月9日午前9時~午後3時まで大連医科大学講堂において昭和大学の南雲正男病院長、川和忠治副院長、大塚純正助教授、道健一教授による講演会が行なわれた。東北地方各地の病院から約50名の参加者があり、講演の後、熱心な質疑応答が行なわれた。

講演の内容は以下の通りである。

- ①南雲正男病院長（口腔外科）：高齢者口腔癌の臨床病理学的特徴
- ②川和忠治副院長（補綴科）：歯のQOLを考えた修復
- ③大塚純正助教授（矯正歯科）：口蓋裂の矯正
- ④道 健一教授（口腔外科）：インプラント成功のための要件（難症例への対応）

### 5) 中国医科大学臨床第二医学院、同口腔外科、大連医科大学、同歯学部、同口腔外科、大連医科大学付属第一医院との交流会

①8月5日夜：中国医科大学臨床第二医学院口腔外科による歓迎会：管前主任、劉主任ほか約10名参加。

②8月6日夜：中国医科大学臨床第二医学院病院長招宴、李副院長ほか約10名参加。

③8月7日夜：中国医科大学臨床第二医学院口腔外科関係者による歓送会：管前主任、劉主任ほか約20名参加。

④8月8日夜：大連医科大学付属第一医院病院長招宴：姜副院長、趙副院長ほか約20名参加。

⑤8月9日夜：大連医科大学歯学部長招宴：朱歯学部長ほか約20名参加。

⑥8月10日夜：大連医科大学学長招宴：趙副学長ほか約20名参加。

⑦8月10日昼：大連医科大学口腔外科関係者との懇親会：潘主任ほか約10名参加。

### 3、事業の成果・今後の交流計画

1) 「日中技術協力歯科治療センター成立協議書」の調印によって今後、約5年間にわたる協力関係が樹立された。この協定に沿って年に複数回の訪中団が昭和大学歯科病院の中で組織され、技術援助が行なわれる予定である。この事業によって中国医科大学臨床第二医学院の歯科医療の向上が期待される。さらに、その機会を通じて両病院の親交はさらに密になり、参加者の両国に対する理解が深まるものと期待される。

2) 講演会は沈陽と大連において開催されたが、日本の歯科界を代表する4名の演者による4時間にわたる講演と質疑応答はこの地区の歯科医にとって大きく裨益することと期待され

る。参加者の中には日本に留学した研究者が多く、日本語の講演がそのまま理解できるものも多かったが、各専門領域の日本語に精通した者を選んで通訳してもらったことによって、さらに、成果が上がったものと思われる。

講演後の参加者の感想では東北地方において歯科の専門各領域の教授が揃って講演をしたことはなかったもので、画期的であったとのことで概ね好評であった。今後も訪中団が組織され技術援助と同時に講演会も継続する予定である。すでに、今年春には中国衛生部の予算で3名の講演者が招待されている。

3) 交流会が毎日行なわれたが、その間に実際の協力体制についての打ち合わせが行なわれ、さらには新規の協力体制、例えば、大連医科大学に対する歯科補綴、歯科技工、歯科インプラントの技術指導についての提案がなされ、今後、前向きに検討することとなった。

#### 4、訪問地の状況・課題

中国における歯科医療の現状は未だ不十分であるように感じられた。しかし、沈陽と大連とでは事情が少し異なっていた。

沈陽においては日本に留学して帰国した歯科医師が多く、特に、それが口腔外科に集中していた。従って、口腔外科については臨床の技術面、特に手術では日本と対等あるいはそれ以上のものもある。しかし、口腔外科でも研究面および臨床のリハビリ関係の知識、能力はまだ不十分でこれからも援助の必要があると感じられた。口腔外科以外の一般歯科については技術、知識、材料の面で未だ不十分で、その上、留学経験者がいないために語学のハンディキャップがあり、交流が難しい。今後、人材育成を含めて援助する必要があると感じられた。

大連においては歯学部長が中心となって計画的に専門各領域の代表者に日本留学の機会を与えている。未だ、日本留学中、あるいは、帰国直後で準備中の分野が多く未完成であるが、数年後には人材が揃い発展するものと期待される。しかし、現状でも、主要なスタッフは日本語が十分に使えるので知識、技術の援助は比較的容易に行なえるし、その成果が期待されると思われた。ただし、パラデンタルのスタッフは未だ未熟であり、今後は技工士の育成と材料、器材などの面での援助も必要であると考えられる。

大連市では開業歯科医が急増し、開業医の設備、技術は一定の水準に達していた。開業歯科医は経済的余裕もあり、設備も充実しているので、口腔外科以外の一般歯科を目指す者にとっては大学勤務よりもはるかに魅力的のようである。このままでは日本に留学しても帰国後に開業を選ぶ者が増えそうで心配であった。留学生には指導者として大学で次の世代を育成してもらえることを期待したいが、そのためには大学の環境を充実する必要がある。中国における政策も重要であるが日本からの援助の方法にも一考を加えなければならぬと感じた。

# 日中技術協力歯科治療センター設立協議書

協力機関：日本側：昭和大学歯科病院

(主として口腔外科、補綴科、矯正科、保存科)

責任者：南雲 正男 病院長

実務担当：第一口腔外科、道 健一 教授

中国側：中国医科大学第二附属病院(中国遼寧省沈陽市)

責任者：孫 建純 病院長

実務担当：口腔科、劉 維賢 主任

目的：日本の優れた歯科治療技術を提供することによって、中国の歯科医師を教育し、中国における歯科医療技術の向上を図ることを主旨とし、この計画を通じて、日中両国の学術交流を一層深め、促進することを目的とする。

主な協力内容：

臨床：(1)インプラントの臨床に関する手術、補綴および保存などの新しい治療法。

(2)口唇・口蓋裂患者に対する手術、矯正、補綴および機能訓練などの新しい治療法。

(3)顎変形症患者に対する矯正、手術および機能訓練などの治療法。

(4)う蝕による歯髄疾患に対する新しい治療法。

(5)歯周病に対する新しい治療法。

(6)陶材焼付鑄造冠などによる冠橋義歯および歯の欠損に対する床義歯等についての補綴技術。

(7)その他：口腔外科、補綴、矯正および保存など、各専門分野における新しい治療法。

研究：

双方の長所を十分に生かして、共同研究を行う。

双方は各専門領域で毎年1～2件程度の共同研究が施行できるように努力する。

研究費については双方が各自の分担する部分の費用を負担する。

研究結果については共同発表するか、あるいは双方とも自国で発表する。

具体的な方法については研究内容、研究分担に応じて、その都度協議して決める。

人材養成：日本側は中国における指導のほかに、可能な範囲内で中国からの短期（3～6か月）の研修生を受け入れる。  
中国側は日本側の希望に応じて臨床研修生の中国における研修を受け入れる。

実施方法：日本側は3か月おきに、各診療科の歯科医師1～2名を中国側へ派遣する。  
滞在期間は7～10日とし、中国滞在中、臨床診療に従事しながら、中国の歯科医師の臨床指導を行う。

費用分担：日本側は日本人歯科医師の国際間の旅費を負担する。  
中国側は日本人歯科医師の中国滞在中の全費用を負担する

実施期間：とりあえず、5年間とする。5年経過時に再検討し、双方の話し合いで延長の有無を決定する。

中国側：中国医科大学第二附属病院院長



孫建純

日本側：昭和大学歯科病院院長

南雲正男

